

県民の森 花こよみ すみれの観察コース

～4月はこんな‘すみれ’が見られます～

スミレとアリ?

春、スミレの花は道ばたやアスファルトの隙間、石垣の上部の隙間からなど、いたるところから姿を見せます。

たしかにスミレの実実るとはじけてタネを飛ばしますが、飛んでもせいぜい50センチ。一体どのようにして、そんなところにまでタネを運べたのでしょうか？



どうやらそれは、アリの仕業のようです。

タネにはエライオソームとよばれる白い固まりがついていますが、これがアリにとって栄養満点のごちそうで、アリはせっせとタネを巣に運び、白い固まりだけを取ってタネは九ごとの外に捨てるらしいのです。これが本当なら、生活の場所をできるだけ広げたいスミレとしてはうれしい話。

スミレを見つけたら、あたりをじっくりと観察してみましょう。

スミレ以外にも、このような方法（「アリ散布」と名付けられています）でタネを広げている植物があります。代表的なものでは

エイザンスミレ (植物園内)



葉が深く裂けている種類の一つで、その中でもっともふつうに見られる日本特産のすみれ。葉の裂け方は深く、3裂するのが基本で、それがさらに裂けて一見5小葉に見えるものもある。花は淡紅紫色がふつうだが、紅色の強いもの、紅色のすじが入るもの、白に近いものと変化がある。太平洋側の低山に多い。日陰を好み、杉林の下でも少し光が入ればよく花をつける。

ヒゴスミレ



花は白色で、すっきりした印象のすみれ。葉が深く3裂するエイザンスミレによく似ているが、さらに細かく深く葉は裂ける。また、エイザンスミレは半日陰を好むが、こちらは日当たりのよい草原や乾きぎみの落葉樹林に生育する。

ヒメスミレ



スミレによく似た濃紫色の花をつける小型のすみれ。生育地はほぼ人家周辺に限られ、日当たりのよい乾きぎみのところに多い。アスファルトのすきまから顔を出していることも多い。葉は三角形に近く、表面は暗緑色、裏面は紫色を帯びるものが多い。

○発行：茨城県植物園管理事務所



北海道から屋久島まで、ほぼ全国的に見られ親しまれているすみれ。朝鮮から中国、ウスリーまで広く分布している。葉はへら状で、葉柄にはっきりした翼(※)がある。裏面は白っぽい緑色のものがふつうだが、紫色を帯びるものもある。毛の有無には変化が多い。日当たりのよいところに生育



すみれの仲間の中では花期がもっとも遅いもののひとつ。いたるところで見られる。花は白色で、直径1cm前後と小さい。葉は心形～腎形。別名:ニオイスミレ



スミレと並んで、日本を代表するすみれ。古くから日本人に親しまれてきた。すじ目がいればよく花を咲かせる。この仲間の特徴は托葉(※)で、楯状の深い切れ込みがある。花期の葉の形は心形(※)。花は淡紫色。

スミレ



人里周辺のやや湿った日当たりの良い場所を好む。花色が変化に富み「有明の空」になぞらえて付けられた。

ツボスミレ(4月下旬～)

タチツボスミレ



タチツボスミレの仲間。名前のおりよい香りのするものが多い。花弁が重なりあうように咲き、色も濃紫色～紫紅色でタチツボスミレよりも鮮やか。また花の中心部の白い部分のはっきりしているのも特徴。明るく乾いた環境を好

ニオイタチツボスミレ

アリアケスミレ(4月下旬頃)

第二広場

第一広場

森のカルチャーゼン

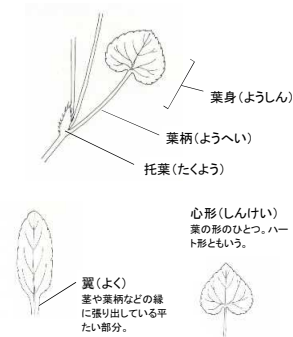
タチツボスミレ

植物園

駐車場



※用語の説明



● トイレ

モデルコース: 歩いて約60分

アカネスミレ



全体に毛が多いものが多い。花の内部に毛が密生し、花弁も閉じぎみに咲くので花の内部がほとんど見えないのが特徴。花の色は鮮やかな紅紫色が多いが、青みの強いものや淡い色など変化が多い。花期の葉はさじ形から長三角形、長卵形と変化が多い。ふつう微毛が生え、両面とも明るい緑色。裏面が紫色を帯びるものもある。日当たりのよい場所で見られる。

コスミレ



低地の人里周辺に多いすみれのひとつ。葉はややまあるみのある長三角形～長卵形で表面は粉をふいたように濡った緑色をしている。裏面は紫色を帯びるものと、淡緑色のものがある。ひとつの株につく花の数は多いほう。

ノジスミレ



スミレによく似ているが、葉が波打ちなんとなくだらしない感じがする。香りも強く、葉柄に翼(※)がほとんどない点もスミレとの違い。生育地は低地の人里付近に限られ、日当たりのよい乾き気味的环境を好む。